

フランスへの留学体験記 (IUT Calais-Boulogneにて)

今回の留学で体験した事について二人の所感を交えながらまとめてみました。(Y:陽太 A:彩華)

We representative of TNCT were fortunate to receive a scholarship to go and study at IUT Calais-Boulogne in France. This was a once in a life time opportunity for both of us and we will never forget this experience and good times we had.

(私達は、今年の3月にフランスのカレーブローニュ技術短期大学(IUT)へ学术交流のために本校(TNCT)の代表として派遣され、お互いにとって人生で一度の忘れられない経験をし、素晴らしい時間を過ごしました。)

A- 今回の留学は私自身にとって初めての海外への渡航だったので、出立前は楽しみな気持ちと不安な気持ちでいっぱいだったことを今でも覚えていますよ。

Y- 私も不安でしたね。私はカレーに着いた時に体中悲鳴を上げていた事を鮮明に覚えています。(笑)

A- 直通便で約13時間、その後2時間電車で揺られる長旅でしたからね。

We joined IUT school curriculum. At IUT all classes are taught in French though we couldn't speak French. So for the first week we had to study French. It was impossible for us to learn everything but we were able to pick up basic and everyday conversation. On the second week, we were able to join the normal classes. Both teachers and students were very helpful because they explained to us in English if we couldn't understand the French. These classes were very informative and interesting. We were given the opportunity to make a presentation in English.

(IUTで私達は学生たちと一緒に授業を受けてきました。学校の授業はすべてフランス語だったのですが、私達は英語しか話せませんでした。そのため、研修第一週目は毎日フランス語の授業を受けました。その授業で全てを理解できるまで成長はしませんでした。日常会話が少しできるようになり、第二週目からは学生との授業にデビューしました。わからない箇所は先生や学生が英語で説明して下さったので、フランス語での授業であっても、新しい知識を得られる有意義なものにできました。また、私たちは英語でプレゼンテーションをする機会を頂きました。)

Y- Je suis allé à Paris. Je suis parti de mon appartement à 5h30. Je suis arrivé à Paris à 10h30. Je suis allé à la tour Eiffel. Je suis monté la Tour Eiffel avec Auriel et Emmanuelle. J'ai pris beaucoup de photos. Ensuite, Nous anons mangé à dans le jardin public ensiute. Ce'tait très bon!!

(私はパリに行きました。私は5時30分に私のアパートを出ました。パリには10時30分に着きました。エッフェル塔に行きました。私はAurielとEmmanuelleと一緒に登りました。たくさんの写真を撮りました。私たちは公園でランチを食べました。とってもおいしかったです。)

これは授業で書いた日記です。稚拙な文章で申し訳ないです。(笑)

A- 書くのも読むのも難しかったですね。特に「R」の発音が難しくてのどが痛くなりました。(笑)

Y- そうでした、そうでした。(笑) 専門教科の話になると、実習のような実践的な授業がほとんどでしたね。あれはIUTの特徴ですよ。



インターナショナルデーの様子

A- そうですね。プレゼンの授業も多かったですね。私達も学校と日本について英語でプレゼンしましたね。

Y- お弁当や山形の風景などに関してとても関心が高かったですね。フランスは戦争の影響で森が少ないようなので、日本の自然にとっても感動していましたよ。

A- そうでしたね。森林が多いことは素敵なことなのだと改めて感じました。

プレゼンテーションスキルは社会人として大切ですよ。高専でもプレゼンの授業をもっとたくさん取り入れるといいと思いました。

At IUT there are many foreign students. When we were there, IUT held an annual event called International day. At the event foreign students had an opportunity to talk about their home countries so we introduced Japan to everyone in French. It was fun but also very interesting to hear about all the other countries.

(IUTには外国出身学生が多い事を活かした、インターナショナルデーという国際交流を行うイベントが年に1度あります。私たちは丁度参加することができました。その中で、各国の生徒は母国の話をする機会があたえられ、私達もフランス語で日本の紹介をしました。他国の文化についても触れることができたので、とても幸運だったと思っています。)

Y- フランス語でのプレゼンは片言すぎではずかしかったです。

A- 発音がうまくできないのでMs.Nikyema(留学の窓口となってくれた先生)が訳してくれましたよ。(笑) モロッコやセネガルなどの民族衣装のファッションショーがあったり母国の料理がふるまわれたりして賑わっていましたね。

Y- 民族色の強い普段食べられない料理ばかりでしたね。A- ベネズエラの料理が一番好きでした。それから、強く印象に残っているのはディスカッションのコーナーですね。

Y- はい、確かに。人種差別について先生も学生も関係なく長い時間討論していましたね。あれは日本ではあまり見ない光景でした。

A- そういうスタンスは大切だと思います。

We also got a chance to travel a little around France and experience the French culture.

(先生や友達と国内のさまざまな所やベルギーに行ったり、フランスの文化について学んだりしました。)

Y- 私が一番印象残っているのはパリの観光ですね。ルーヴル美術館やオルセー美術館に行くと、芸術にも触れ

てきました。まあ、美術品に限らず、都市計画がきちんとなされている事から町全体が芸術と言えましたね。
A- そうですね。細い路地であっても入りたくするような綺麗な町並みでした。日本であの町並みが見られるのはディズニーランドくらいですよ。(笑)
私はMme.Andre(とてもとてもお世話になった英語の先生)にいろいろなことを体験させてもらった事が印象に残っています。ブローニュに連れて行ってくれたり、仮装行列(カーナヴァル:各地区の小学校で行われるお祭り)に参加させてもらったり選挙を見学させてもらったりしましたね。



カーナヴァル前、地元の小学生と一緒に

Y- カーナヴァルに関しては、その専門店があったほどですから、重要な行事なんですよね。ブローニュでは歴史的建造物、戦争の跡を見ましたね。あと、水族館、あれはすごい!ただ魚を見せるってよりは魅せる!っていう水族館側の意欲を感じました。

A- 魚や動物たちが日本よりも身近に感じましたね。純粋に楽しかったです。そして、食文化ですね!

Y- フランスの代表的な家庭料理【ニンジンと牛肉の煮込み】やとろとろのチーズがたまらない【ラクレット: raclette】、どれも最高でした。後はクレープがフランス発祥とは驚きました。

A- そうですね。私も驚きました。そして日本のごはんの変わりややはりパン。レストランではパンがおかわり自由でしたね。

Y- 私達もパン屋さんには毎日通いましたね。ちなみに老若男女、みなさん買ったものはすべてエコバックで持ち帰っていました。エコ意識高いですよ!しかもこのエコバックがまたかわいいのでお土産に5つくらい買ってしまいましたよ。(笑)

A- 日本でもエコ意識高まっているのでお土産にぴったりですね。



左上:アパートでの食事風景、右上:ラクレット
左下:クレープ、右下:ニンジンと牛肉の煮込み

総評《Ayaka》
私は今回のフランスでの留学で一番感じたことは人の暖かさです。フランスの方々はとても朗らかで、目が合うとニコッと笑ってくれて、困っていると話しかけて助けてくれました。また、フランスの方々にはあいさつを大切にしている文化があるということを感じました。お店に入るとき、出ていくときもあいさつをし、友人と会った時は「Bonjour」(こんにちは)と言ってビズ(頬と頬を重ねてするキス)を必ず一人一人と交わすのです。朝学校に来て友達が10人一緒にいても、一人一人とあいさつを交わしていました。私も友達や先生と必ずあいさつを交わしました。あいさつを交わすことでより仲良くなれたと思います。とても素敵な習慣であり、あいさつは人々の気持ちを豊かにするものだと改めて感じました。そして、人生初のフランス生活にだんだん慣れてきたころ、日本で東日本大震災が発生しました。フランスでも大きなニュースになりました。友達や先生、そして知らない町の人々、会う人々が「家族は大丈夫?」と心配してくれました。幸い陽太さんと私の家族は無事でした。みなさんのお心遣いに感動しました。

たくさんの人々の暖かさや優しさに支えられて私たちは1か月間という短い期間でしたが、忘れることのない素晴らしい経験ができました。人の暖かさ、異文化、それに加え日本の良さ、今まで知らなかったこと、できなかったこと、たくさん学んできました。今回の学术交流で視野が広がり、新しいことにチャレンジしやすくなったと感じています。学术交流は自分を成長させることができる良い機会だと思います。興味を持った方にアドバイスをできると思うので質問がありましたらいつでも聞いてください。

総評《Yota》
留学前、私の英語スキルは低く、英会話の経験もほとんどありませんでしたし、そもそも英語はできれば勉強したくない教科の一つでした。それでも、外国を知りたいという気持ちを支えに勉強し、ギリギリのところで選抜試験に合格して、なんとか留学させていただく事ができました。
前述の通り、留学は私の学生生活における最高の思い出となり、今回の経験から様々なことを感じ、学びました。そして、【なぜ私は英語が得意ではないのか?】という長年の疑問に対し、【日本語で生活できる世界で、わざわざ英語を勉強する必要がある?無駄じゃないの?】と悩んでいたから、という答えを見出すことができました。しかし、フランスに行ったらたくさん友達を作り、現地ですべき楽しいことがしたいと、勉強することに目的を付けたことで、私の英語に対する苦手意識を消す事が出来ました。そして今ではTVの英語番組を録画して勉強するようになりました。

英語は何かするためのツールの一つですから、使う機会がなければ意味がありません。英語が嫌いなあなたも、楽しい思い出を作るために、ちょっと英語の教科書を開いてみませんか?



チューターのAmélie(アメリ)さんと一緒に